

南風原町 南風原町字喜屋武自治会

集落
部門

守り繋ぐ結いの文化が活力のふるさとづくり (令和4年度認定)



喜屋武地区は、琉球絣発祥の地である南風原町に位置し、隣接する照屋・本部地区とともに、工房が集まる「かすりの道」を有する集落である。当該地区には「綱ヒチャー」と「十五夜あしび」の二大伝統行事がある。これは喜屋武の人々の「ムスマイ(結い)」の精神を育む土壌となっており、“喜屋武の人々の団結力は鉄より固い”を意味する「喜屋武カニー」という言葉があるほど、地域と密接な関係を持つ重要な行事である。

約250年前から行われている「綱ヒチャー」は、旧暦の6月25日の6月カシチーと6月26日の雨寄又御願(あみしぬうがん)の両日に行われる。喜屋武の綱引きは、約100mの大綱を時間制限無くどこまでも引き続け、どちらか一方が力尽きるまで勝敗がつかないのが特徴である。

また旧暦の8月15日には、区民が喜屋武地区の伝統芸能を披露する「十五夜あしび」という行事がある。通常は、「長者又大主」などといった演目が披露されるが、大きな祝事がある年は「大遊び」の演目が披露され、最後に登場する組踊「本部大主」は末の一番として位置づけられ、ムラの最も誇りとされている。その他「腰ユックイー」やカジマヤー祝い、区内一斉清掃などの年中行事も区民総出で行われている。これらの行事を通じて喜屋武区民のムスマイをさらに強くし、心を豊かにしている。

このように、地域住民が積極的に参画し、地域の伝統文化の継承を通じた「ふるさとづくり」に取り組んでいることから、「沖縄、ふるさと百選」の集落部門に認定された。



区民による綱作り



大遊びの演目「本部大主」



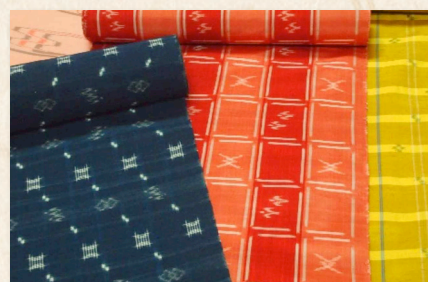
十五夜あしびの演目「長者又大主」



腰ユックイー



カジマヤー祝い



琉球絣